

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

「平成27年度・第2回」

平成27年11月28日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業等役職員等の学校関係者を選任し、学校が実施した平成26年度における自己評価の結果と、平成27年度における取り組みに対する評価を行い、教育活動と学校運営の改善に向けた助言を行う。なお、評価の観点は次の項目による。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策等が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策等が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 平成27年度 第2回学校関係者評価委員会の実施

平成27年度における各評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。

尚、平成27年度の重点項目は次の通りである。

- ・留学生教育の充実
- ・「読売式教育メソッド」のブラッシュアップ
- ・学校施設を含めた教育環境の整備

・開催日時：平成27年11月28日（土） 14:00～16:10

・場 所：本校 402 教室

3. 学校関係者評価委員会委員

【委 員】

- ・渡部 俊一：卒業生 校友会副会長
- ・植田三喜男：保護者 臨床工学科学生の保護者
- ・湯浅 孝雄：地域住民 慶応仲通り商店会会長
- ・羽場 宏祐：企業等 放送映像学科 (株)インターナショナルクリエイティブ
- ・鹿毛 信一：企業等 建築系学科 河端建設(株) 欠席
- ・武田 知明：企業等 電気電子学科 東邦電計(株)
- ・笹口 友美：企業等 臨床工学系学科 北里大学北里研究所病院
- ・大庭 尚子：企業等 介護福祉学科 港区立特別養護老人ホーム港南の郷

【学校側】

- ・千葉 康文：理事長・校長
- ・尾林 徹：校長補佐
- ・菅野 敬祐：校長補佐・臨床工学系学科長
- ・黒田 幸弘：建築系学科長
- ・水落 清治：放送映像学科学科長
- ・曾我 辰也：介護福祉学科学科長
- ・角田 浩二：電気電子学科学科長
- ・豊田 正敏：参与
- ・天野 誠一：法人本部長
- ・大角 直也：事務局長
- ・久保 真樹：総務室課長

(敬称略・順不同)

4. 委員からの意見・提案：評価点は4点満点（ ）内は第1回評価委員会の評価点

(1) 教育理念・目的・育成人材像等 4.0 (3.75)

- ・読売式教育メソッドは学校の教育方針が端的に表されていて、学生にも理解されやすいと思う。
- ・各学科がそれぞれに読売式教育メソッドを具体化して教育プログラムを考案しているのはとてもよい。
- ・各学科が読売式教育メソッドに沿って個別に目標を定めている点は評価できる。
- ・すべての学科に共通する課題として、コミュニケーション能力の向上が挙げられる。学科内の友人だけでなく他学科の学生とも積極的に意見交換ができる場を設けてみてはどうか。
- ・ふだんの学校生活やアルバイトなどを通じてコミュニケーション力を高めるトレーニングを推進してほしい。

(2) 学校運営 3.4 (3.88)

- ・国が設置を目指している専門職大学構想については、ぜひ前向きに検討すべきだ。
- ・専門職大学に参画するのであれば、同時に校舎の移転や建て替えが望まれる。学生募集にも大きな効果が期待できる。
- ・財政的な制約もあると思うが、学校施設の整備計画は早急に進めていただきたい。
- ・来年は学園祭などの学校行事も見学してみたい。学生たちのふだんとは違う表情が見られそうだ。

(3) 教育活動 3.6 (3.75)

- ・留学生の受け入れは経営的な面から考えても避けて通れないだろうが、日本語能力の問題もあり、教員の負担は増していると思う。入学時の条件を少し引き上げてはどうか。そうすれば授業の遅れや、成績不良による退学といった問題が減るのではないか。
- ・留学生は異なる言語と文化を持っている。彼らに対応していくためには教員の補充も検討していく必要がある。
- ・優秀な留学生を一人でも多く世に送り出すことだ。そうすればおのずと学習意欲の高い留学生が集まるようになる。
- ・留学生は今後も増えていく。学校全体で留学生向けの教育プログラム作りに取り組む必要がある。
- ・昨今の学生は学習意欲や考え方にばらつきがあると思う。効率的で学生に高い満足度を与えられるカリキュラムを工夫していくことが大事だ。
- ・各学科長から具体的に授業内容や学生指導の実際を聞くことができ、熱心に教育に当たっていることがよく分かった。

(4) 学修成果 3.4 (3.65)

- ・国家資格については高い取得率を維持できていて素晴らしい。資格対策授業や充実した実習、体験型学習を実施していることが効果を上げていると思う。
- ・学校で学んだことが就職後にどう生かされているか、卒業生にアンケート調査を行ってみてはどうか。調査結果を学生や保護者に開示することで、より安心して学ぶことができるようになるのではないか。
- ・放送映像学科の卒業生に関しては、学校で身に付けた知識や技術をしっかり職場で生かしているという印象だ。

(5) 学生支援 3.6 (3.63)

- ・アルバイトで学費で捻出している学生も少なくないと思う。学校独自の奨学金も用意されているが、さらなる充実をお願いしたい。

- ・カウンセラーを置いているのは評価できる。カウンセリングを受けることに抵抗を感じる学生もいると思うので、気軽に相談できる雰囲気づくりを心がけてほしい。
- ・教員が一丸となって親身に学生の相談にのっている姿勢は評価できる。

(6) 教育環境 3.3 (3.25)

- ・教育機材は今のところ十分に整っていると思われるが、どんどん新しい機材も出てきている。不断に更新計画を考えていく必要がある。
- ・建物は年数を経てはいるものの、内装はあまり古さを感じない。清潔に保たれていると思う。
- ・教職員を含め学校全体で明るく挨拶をかわせる雰囲気を作っていってほしい。

(7) 学生の募集と受け入れ 3.4 (3.5)

- ・2019年に創立50周年を迎えるとのことだが、その記念すべき年を最大限にアピールし、学生募集に結び付けていくべきだ。
- ・介護職に対する世の中の認識がまだ十分でなく、介護福祉学科は人材を集めるのに苦労されていると思う。卒業生の出身高校を訪問して、卒業後の進路や働きぶりなどを報告しているということだが、とてもよい試みだ。

(8) 財務 3.3 (3.25)

- ・校舎の建て替えや移転には膨大な資金が必要になる。財政的な裏付けの構築をしっかりとお願いしたい。
- ・学校の収入の柱は学生からの納付金を置いてほかにない。入学者の確保に全力を注いでほしい。

(9) 法令等の遵守 3.7 (4)

- ・ウイルスが仕込まれたメールによる攻撃などが増えてきている。学校は学生の個人情報を保有しているため、危機管理の徹底を改めてお願いしたい。
- ・個人情報保護やマイナンバー対応など時代に即応して各種の規程が整備されており、良好だと思う。
- ・専門職大学に参画するのであれば今以上にコンプライアンスの強化が求められるだろう。

(10) 社会貢献・地域貢献 3.0 (3.25)

- ・地元商店街の掲示板を活用して学校行事の紹介や、アルバイト募集の告知を行ってみてはどうか。地域と学校の双方向の関係が築けると思う。
- ・地元の商店や飲食店では人手不足でアルバイトを探している店も多い。留学生にもアルバイトを経験させることで、金銭的な支援のみならず、日本語能力やコミュニケーション力のアップにつながるはずだ。
- ・「24時間テレビ」の募金ボランティアなどを行っているが、社会との関わりを持つという意味でとても重要だ。ぜひ続けていってほしい。

5. 平成27年度の取り組みに対する評価

各評価項目の取り組み状況に対しては総じて高い評価を得たものの、10項目中7項目で前回(第1回評価委員会)の評価を下回った。「学校運営」では、老朽化が進む校舎について移転もしくは建て替えを望む声が依然として強い。「教育活動」では、留学生の増加に関する指摘が多く、教育の質の維持に対する懸念や、学校としての受け入れ方針の明確化が必要との意見が目立った。留学生をどう受け入れていくのか、また、言葉のハンデを乗り越えるためにどんな教育指導を行っている

くのかについては、今後さらに深刻化する課題であり、早急に対応策を考える必要がある。

一方、「教育理念・目的・育成人材像等」は、読売式教育メソッドの制定とメソッドに沿った各学科の教育実践が認められ、高い評価をいただいた。メソッドでうたう人間力・専門力・就職力・資格取得力・基礎学力の5つの力がどの程度養われたのかについて検証を重ね、さらに深化させていきたい。

6. まとめ

平成27年度第2回委員会における委員の方々のご意見ご提案を、年度末までの教育活動・学校運営に反映させるとともに、第1回委員会のご意見ご提案も含め、来年度の教育活動・学校運営に活用する。

以上